

Web サイト制作による地域貢献を通しての 情報教育について

吉田典弘

Information education in the local contribution by the website work

Norihiro YOSHIDA

The website of the off-campus organization was made as part of activity of the local contribution in a university. Such activity may be set to one of the state of the new education technique in a university as practiced type information education. Based on the comment of the student who lets this activity pass, it is shown what kind of effect such education technique has.

Keywords : General Information Education, Local Contribution

1. はじめに

近年、全国の多くの大学において地域貢献が行われている。相模女子大学でも様々な地域で、色々な活動を行ってきている。メディア情報学科でも色々な地域貢献を行っているが、2012年度より、大学外の団体の Web サイトの構築を行っている。この活動のきっかけとなったのが、大学内で開催された地域貢献活動の報告会であった。ここでは、東日本大震災時に支援いただいた国にお礼を伝えるプロジェクトとして、タイに子ども用の椅子を送るボランティア活動や、三重県熊野市の国内最大級の棚田である「丸山千枚田」の田植えや稲刈りを体験し、収穫を名産品に加工して提供する活動などが紹介され、大きな刺激を受けた。印象に残ったことは、地域に貢献することも大きな意味を持つが、それを以上に、活動を行った学生が、キャンパスにおける大学の授業だけではできない、多くのことを経験することができ、大きく成長すること、そして、終了後には、達成感を得られることなどがあった。相模女子大学では、このような活動により、日経グローバルによる「大学の地域貢献度ランキング」において、2011年から2014年まで、全国の女子大学で4年連続第1位となっている。また、地域貢献に参加した学生は、大学の教職員とは全く関係のない、社会の人達とコミュニケーションを取りながら作業を行うので、実社会に出て働くための前段階として、実践的な社会活動として大変意義がある。本稿では、メディア情報学科において行われた Web サイト制作による地域貢献を紹介し、それによって、学生がどのように成長できたかを示し、このような地域貢献による実践型情報教育の在り方について提案する。

2. NPO 団体の Web サイト制作について

メディア情報学科の専門教育においては、1年次から Web サイト制作の教育を行っている。1年次の後期には、必修科目として HTML5 と CSS3、2年次から選択科目となるが、前期は、JavaScript、2年次の後期は、Flash の基礎、3年次の前期が Flash のみによる Web サイト制作、後期が ActionScript の基礎を学習する。しかし、今まで、各学生が制作した制作物は、担当の教員に提出するか、学生同士だけで見合うなど、評価は授業内だけ、また公開しても学内だけになっていた。そこで、大学を卒業後、Web サイト制作に携わりたい学生も多く、達成感と自信を持ってもらうため、社会と関連した Web サイト制作を経験させることを考えた。その結果、学外団体のサイトを制作する機会を学生に与えることとなったのである。

このような学外団体との連携は、大学教員だけで行うことは難しい。本学には、事務組織として、教育研究推進課という地域連携を推進する部署があり、大学の全学部全学科のサポートを行っている。そこを通して、Web サイト制作を行うことで、地域貢献ができる課題がないかを相談した。相談の結果、まずは初めての取り組みであったため、最初から大規模ではなく、小規模で行ってみることとした。担当職員が、大学のある相模原市に詳しい方であったので、まずは、Web サイトを営利目的に利用しないような団体が良いのではないということから、相模原市にある NPO 団体の Web サイト制作を行うことになった。それが、「子育て親育ち応援団 With.cfc」である。まず、最初に NPO の代表の方と、どのようなサイトにするか、そして、サイトの目的など、制作のためのコンセプトメンキングについて、学生に制作してもらう前段階として、2012 年 10 月に初めての打ち合わせを行った。この NPO 団体の Web サイトによる広報の希望内容は、活動の情報誌「ぽけっと」を発行しているので、それを Web サイト化して、このような活動について、母親や子育て支援に関係している人など、多くの人に閲覧してもらうことが希望であった。は、相模原市にある大野台公民館での「ひろば」で、月に 1 度開催しているイベントの告知、また、相模原市内の百貨店では、子育てひろば「たんと」を実施しているので、そこに参加している人（例えば広場のスタッフ）向けに本サイトおよび携帯サイトを制作してほしいとのことであった。

3. Web サイト制作の過程と学生の感想

2013 年 4 月公開を目標に、2012 年 11 月により制作を開始することとなった。メディア情報学科 3 年生から、担当学生の 3 名が決まり、Web サイト制作は、1 年生から教育した HTML と CSS および、動的なものは、JavaScript, Flash などを使用し、基本はタグを使用して制作して欲しいと思ったが、学生 2 名が過去にホームページビルダーでサイトを制作した経験があり、今回もこれを使用したいと強く希望してきたので、サイト公開後、更新していく上では、あまり好ましくないと思ったが、サイト公開の日時の期限もあったので、許可をした。担当は、学生 3 名に相談させ決めたが、トップページ担当を 1 名、サイト内で使用するイラストの担当を 1 名、表組を必要とするページ担当を 1 名とし、その他は、担当の分量がなるべく均等に振り分けた。実際の作業過程は、トップページを担当した学生を例として、表 1 に挙げておく。

制作の過程で大切にしたのは、クライアントである NPO 団体との意向である。このような Web サイト制作は、学生のためではなく、あくまでクライアントの要望に応える必要があった。そこで、最初にトップページと、日程の掲載されるカレンダーのページ、そして、情報誌である「ぽけっと」をサイト化したページの 3 ページを制作させた。それを、NPO 団体に提示し、方向性が間違っていないかを確認してもらった。このような、少し制作しては、打ち合わせを行って、確認をするという作業を繰り返した。しかし、完成近くになり、当初掲載していたサイト内の絵について、サイトを閲覧する子育てをされている母親に、誤解を与えてしまう可能性があるとのことで、ほとんど全てが差し替えとなるなどのことがあった。このようなことは、通常の授業では、あり得ないことであり、学生もこのような点では、自分だけの判断でできないことを経験した。なお、完成した NPO 団体のサイトのトップページを図 1 にします。また、URL は、<http://www.nyoshida.fc2.com/with/>である。以下、学生の制作終了後の感想である。

・学生 A の感想

相手の方とは、打ち合わせでしっかりと意見交換ができなかったため、完成している所をあとで修正して欲しい、と言われることも多く、作り直しを何度もした。自分が「良い」と思っているデザインでも、相手はそう思っていなかったりもして、画像・レイアウトを変更することはしばしばあった。自己満足での製作とは訳が違った。実際に打ち合わせというのも初めての経験で、こうこうして 1 つのサイトを製作していくのだなーという流れが分かり勉強になった。

表1 学生の制作過程

期日	作業内容	詳細	時間
2012・11.17	第1回クライアントとの打ち合わせ	どのようなサイトにするかの指標となる、コンセプトメイキングの検討を行った。	2H
2012.11.18 ～2012.11.25	トップページの制作	緑を基調とし、子育てらしく暖かい雰囲気になるよう注意しながら制作	7H
2012.11.26 ～2012.12.16	子ページをリンク	他2名の制作したページのデータを送ってもらい、トップページとリンクさせる	3H
2012.12.17	第2回クライアントとの打ち合わせ	トップページと他2ページを作成したので、クライアントに確認してもらう。他のページの構成を検討	2H
2012.12.18 ～2012.12.30	トップページ修正	修正すべきところを修正。トップページのレイアウト・テキストの大きさ・背景イラスト・ロゴの変更	10H
2013.1.10 ～2013.1.20	子ページ「ひろば」制作	トップページの他、「ひろば」を担当していたので制作 1, 2 月分のデータを制作	6H
2013.1.21 ～2013.1.25	工事中ページの制作	「coming soon」と表示されたページを制作し、まだデータの無いページに表示させる	2H
2013.1.30 ～2013.3.10	子ページをリンク・更新	他2名が担当し、制作した新しいページをリンク元あった子ページの最新版データを貰い、更新	3H
2013. 3. 13	第3回クライアントとの打ち合わせ	サイトがほぼ完成し、トップページから各リンクページへの確認を行う。	2H
2013.3.20	サイト紹介ページをリンク	with.cfc の紹介ページをトップページにリンク	2H
2013.3.22	ページの更新	全員からデータをもらい、3月分を更新	2H
2013.3.23 ～2013.3.31	最終チェック	全てのリンク、ロールオーバーの動作、レイアウト、解像度別の見え方等々確認を入れ、アップに備える	3H
2013・4・1	インターネット上への公開		
2013・4・30	サイト運営の確認	公開一か月での運営をクライアントに確認	1H



図1 制作した Web サイト

・学生 B の感想

ちゃんとしたホームページを制作することが初めてだった私としてはクライアントとの打ち合わせを兼ねたホームページ制作はとても難しく、でも身になった経験だったと思います。ホームページを無事制作できた時には達成感も得られました。私としては今までイラストは人間を中心に描いていたので人間は必要ないと言われた時にはどうしようと思い、大変でしたがやり遂げました。自分で好き勝手制作するホームページとは違いクライアントの思った通りのものを作りあげるのは学生ながらに難しいものだと感じました。もちろんホームページ制作をやろうと思ったきっかけ通り、良いスキルアップにも繋がったと思っています。

・学生 C の感想

クライアントの打ち合わせから始まり、サイトのデザインから構築まで経験させていただいて、私自身の Web サイト制作の知識やスキルをより磨くことが出来たと思いました。また、今回の実習ではクライアントの方と一緒に制作するという事で、いつもの授業とは違った環境で制作しなければならず緊張感があり、作ることの責任も大きさも実感しました。

クライアントの想いを Web サイト上で表現する際には、技術的な面でなかなか自分の思い通りに、表示されなかったりして苦勞した点もありましたが、その分完成した時は大きな達成感とやりがいを感じることが出来ました。メンバーの皆で協力してだんだんと Web サイトが形になっていく過程はとてもわくわくし、Web 制作の楽しさを見つけました。

4. 地域貢献による情報教育の可能性

4.1 学生の感想から分かること

3名の学生の感想に共通していることは、クライアントである NPO 団体とのコミュニケーションに関することである。大学の講義や演習などの課題では、学生の自己判断あるいは自己満足、あるいは教員が要求した課題がこなせているかどうか判断となる。しかし、今回のように学外から依頼された場合には、制作物が良いかどうかの判断は全てクライアントによるのである。もちろん制作過程では、話し合っているのだが、最終的な決定権はクライアントにある。そのため、いかにクライアントの意向をきちんと理解し、その要求に応えるようにすることが大切になる。このようなことは、実社会のビジネスでは当然のことであるが、大学内の授業だけで、しかも教員と学生だけのやりとりでは経験できなくことである。情報教育という観点からは、他の人から依頼されたものを、その人の意向に合わせて、如何に表現するかという能力を育成しているということになるのではないかと考えている。では、このような地域貢献を行う上で、どのようなスキルが必要かを学生の感想と、実際に側にいて制作過程を見ていた者として述べる。無論であるが、3年生までの Web サイト制作に関する授業で、今回の制作過程で必要となる基本的なことは教えてきたが、クライアントの要求されることに如何に答えるか、あるいはどのように実現するかを、学生自身が自主的に考えるようになり、必要とされることがあれば、各学生が各自で文献やインターネットを調べるようにする、あるいは、学生間で相談や協力して解決に当たるようにしていたことが大きな点である。

また、このような地域貢献における教育活動における教員の役割は、あくまで学生とクライアントとの懸け橋であり、中間の位置で、単なる調整役であった。つまり、最終的に正解とするのは、教員ではなく、クライアントであり、また打ち合わせもあったので、学生自身がクライアントと話し合えるところは全部任せるようにした。ただ、学生に制作物の提出期限を守らせることには注力した。このような活動においては、教員の役割は、通常の講義、演習とは大きくことなるが、学生を成長させるには大変有効な方法だと実感している。

4.2 実践型情報教育の提案

2020年には全世界の人口の80%がインターネットを利用するようになり、現在の日本のような状況となることが予想されている¹⁾。また、スマートフォンは、発展途上国などにおいては、高価なパソコンより普及していることも報告されている。このような中で、HTML5の誕生により、今後、HTML5による表現方法さえ修得していれば、テキストエディタとブラウザにより、Webサイトに限らず、様々な所に動画などを簡単に発信する、あるいは様々なコンテンツを制作できることになった。とすると、地域貢献のような、大学外の団体と連携して、何かを制作するような、実践型情報教育は今後広がっていくように考察する。特に、生まれた時からインターネットが存在していた、デジタルネイティブと言われている新世代の学生には、適した教育の題材であると思える。前述をしたが、このような教育を行うためには、大学の低年次で必要となる基礎的なスキルの教育を行うことは当然である。また、教員も外部団体との連携活動を行うことで、実社会に貢献できるような制作を行うために、何が必要で、何を教育していくべきかについて新たな発見があり、教育内容に大きな変更を与える可能性がある。

5. おわりに

Webサイト制作による地域貢献を通しての情報教育についての一例を示した。また、このような実践型情報教育が今後は必要となることも述べた。現在、このNPO団体のWebサイトは、後輩学生により更新を行っている。また、2013年は、相模原市にある女子サッカーチームのWebサイト <http://stellakanagawa.nojima.co.jp/> のリニューアル、2014年には、相模原市自治会連合会のWebサイト <http://www.sagamihara-jichiren.jp/> のリニューアルを行い、地域貢献の一環として担当することが出来た。このように、学生が通常の授業で養われたWebサイト制作に関して身に付けたスキルについて、実践型情報教育を通して、さらに向上させることができた。

参考文献

1) 村井純:サイバースペース時代・情報教育の役割, 日本情報科教育学会第6回全国大会招待講演(2013).

